

RCNP 研究会

「全反応断面積及び荷電変化断面積による陽子・中性子半径研究の現状と展望」報告書

開催日時： 2016年1月12日(火)～13日(水)

開催場所： 大阪大学核物理研究センター・本館6階講義室1

世話人：

緒方一介（阪大 RCNP）、武智麻耶（新潟大）、谷畑勇夫（阪大 RCNP）、
萩野浩一（東北大）、福田光順（阪大）、松本琢磨（九大）、蓑茂工将（阪大 RCNP）、
Buohua Sun（北航大）、堀内渉（北大、連絡責任者）

予算使途： 参加者への旅費・滞在費補助（計8名）

採択額 300,000 円(使用額 299,810 円)

研究会の実施状況と成果：

本提案の研究会では、全反応断面積及び荷電変化断面積による原子核の陽子・中性子半径の研究について、関連する国内の実験、理論研究者が集まり議論を行った。発表件数は18件、参加者は約40名となり、活発な議論が行われた。最近の不安定核ビームによる断面積測定の新進展が報告され、研究の現状を整理すると同時に、より重い核の陽子・中性子半径を決定するための展望について議論がなされた。理論研究については陽子・中性子半径を決定する方法論の提案が行われ、それらの核物質への影響や核構造との関係について活発な議論がなされた。若手研究者からシニアな研究者まで幅広い参加者が得られ、原子核の半径というテーマのコミュニティーの広がりを再認識し、今後分野を発展させていく上で大変有意義な研究会であった。

参加者8名分の旅費・滞在費に対して、RCNPからは30万円の予算援助を頂きましたことを感謝いたします。予算は申請より10万円の減額となりましたが、世話人が自身の研究費で参加を行うなどの対応をし、財源を持たない研究者、学生の参加を奨励しました。